



Japan
Jenaplan
Association

vol. **40** 2021. 9 月号

一般社団法人

日本イエナプラン教育協会 ニュースレター

Contents

1. 共に飛躍するために一協会のこれからに向けてーリヒテルズ直子
2. 私とイエナプラン（前理事 久保礼子 中川綾）
3. 私とイエナプラン その2（理事・事務局より）
4. 第2回日蘭アカデミー（イエナプラン専門教員資格取得研修）研究発表報告
5. 日本版ゴールブック モニター中間報告
6. 日本イエナプラン専門教員資格認定研修 中間報告
7. 言語プロジェクト始動しました！
8. ニュースレターの今後について
9. 支部報告
10. 支部一覧

共に飛躍するために

――協会のこれからに向けて――



リヒテルズ直子

オランダ・イエナプラン教育協会（NJPV）の全国大会の様子から、、、

オランダの中央部、フェルウェという森林地帯の中にある、パペンダールという施設は、オリンピックやスポーツの選手権大会などに出場するアスリートらが合宿訓練をするために作られた贅沢な宿舍付きの会議場です。数年前まで、オランダ・イエナプラン教育協会（NJPV）が、毎年全国大会に使っていた施設です（＊現在は別の場所に移動）。

今から、15年前、平凡社から「オランダの個別教育はなぜ成功したのかーイエナプラン教育に学ぶ」を上梓した直後、2006年11月、私は、初めて、オランダイエナプラン教育協会の全国大会に出席しました。自宅から会場に向かう途中、朝の通勤ラッシュに巻き込まれ、予定よりも数分遅れてバタバタと会場の席に着くと、壇上にいるメイヤー会長が、私と同行していたもう一人の日本の研究者が会場にいることを、その場にいた参加者に報告しました。それに続いて、その年の基調講演が始まりました。基調講演は、普通、イエナプランの専門家とは限らず、外部の研究者、話題の教育者などが招かれて行います。1時間ほどの基調講演が終わると、司会の会長は講演に集中して耳を傾けていた会場の参加者をくつろがせるように、「さあ、ちょっと音楽に合わせて、皆で踊りましょう」と声をかけ、スピーカーからはパンチの効いたリズムの音楽が流れてきました。会場にいた人たちは、皆、その場に立ち上がり、にこやかな表情で踊り出しました。

オランダのイエナプラン教育協会の全国大会は、毎年、11月の第1週目の木曜日から土曜日にかけて、2泊3日で開催されます。オランダにある200校ほどのイエナプランスクールから、それぞれ数人ずつの先生が参加します。参加費は、一人6万円前後で、決して安くはありませんが、会場には、300～400人程度の参加者が集まります（これだけの教師たちが高い会費の大会に参加できるのは、オランダ政府が教員たちに研修費を出しているからでもあります）。

全国大会では、毎年何らかのテーマが決まっています。

その年のテーマは「小石と結晶」。おそらく、一見道端の小石のように見えるものが、実は結晶のような輝きのあるものであることを発見する、、、つまり、子どもたちの良さを結晶の輝きに象徴したテーマです。他にも、これまでの大会であげられたテーマから興味深いものを挙げると「ローズガーデンで私を見失わないで」（ローズガーデンは、理想のイエナプランスクールを想定して書かれた本に出てくる学校の名前）「りんごと梨」（りんごと梨は比べられない、違う性質や環境の子どもを比べるわけにはいかない、という意味）「イエナプランはまだ巣の中？」（もっと成長しなければならないことがあるよね、という振り返りの観点？）「この子達にゆとりを」「逆風をどうやってこれからも吹かせていく？」（学校改革運動としてのイエナプラン？）「深く潜れ、高く飛べ」「なぜ、どんなふうに、何を？」などです。

上述のように、基調講演には、そのテーマにふさわしい研究や実践をしている外部の有名・無名の教育者が招かれ、1日目の午後から2日目の午後までの1日半の時間は、施設内の複数の会場で小1時間ずつ、テーマに則しながらワークショップが開かれます。ワークショップの指導は、先輩のベテランのイエナプラン教師が担当することもあります。ほかに、大学の研究員、企業や組織や学校でチームづくりに携わっている熟練のファシリテーター、心理士などが外部から招かれて担当するケースも少なくありません。毎時間、いくつもの会場を使って、種々のワークショップが同時進行で行われているので、参加者は、事前に送られてきたプログラムを見て、時間ごとに自分が関心を持つテーマの部屋に行ってワークショップを受けるという仕組みです。

大会会場には、今年2月に高齢で逝去された故アド・ブースさん（オランダ・イエナプランの母スース・フロイデンタールの膝下で初めて作られたイエナプランスクールで、第1世代の教員として働いた人で、のちにアッセンの大学にイエナプランの教員養成コースを設置し、イエナプランの発達史の本を書かれた方）や、フロイデンタールの片腕として実践研究や理論研究に貢献し、20の原則の草案を作ったり、ワー

ルドオリエンテーションの体系を打ち立てたりした元研究主事のケース・ボットさんなど、いわば、オランダ・イエナプランの第一世代の重鎮たちも、必ず姿を見せていました。

また、イエナプランスクールの校長らも、この会場にはよく顔を出し、長く、一緒にオランダのイエナプラン教育の普及や発展を率先して引っ張ってきた先輩たちの同窓会のような雰囲気もありました。合宿中、参加者は、毎食時、大ホールにいくつも置かれた、8人ほどが一緒に座れる大きな丸テーブルについて食事をします。そこで、よその地域のイエナプランスクールの教師たちと出会ったり、先輩のイエナプランナーと議論をしたり、基調講演に招かれた講師や、ケース・ボットさんなどの重鎮と言葉を交わすなど、日頃会えないイエナプランナー同士、イエナプランの経験が厚い先輩と駆け出しの若い後輩とが交流する素晴らしい場所です。

第1日目の夕食の後は、ディスコナイト。煌めくディスコボールと生バンドの演奏する中、広い会場で、教員たちが、音楽に合わせて、夜中まで踊ります。そして、最終日の午前中、戸外で、探索やスポーツ活動を行い、大会は終了します。

学習会と機関誌

オランダのイエナプラン協会は、まだ、協会になる前の「財団」の時代から、イエナプランを実践する教員たちが自主的に集まり、自らの実践とその成果を共有し、学習会を続けてきました。その結果は、初めは「ペダモルフォーゼ」（子ども学のペダゴジーと変化・変身を意味するメタモルフォーゼという語を組み合わせで作った造語で、おそらく、「子どもへの関わり方の変革」というような意味）、のちに「メンセンキンデレン」（メンセン＝人間、キンデレン＝子どもたちで、「人間としての子どもたち」の意）という名で、機関誌として発表、刊行されてきました。

「ペダモルフォーゼ」の時代には、スース・フロイデンタール初め、当時の実践者たちが、手動式のタイプライターで書いた論文を輪転機で印刷した手作りの味わいのあるものですが、そこに、今も読まれるオランダ・イエナプランの創成期に書かれた古典的に重要な論文が収められています。

また「メンセンキンデレン」も、すでに36年目を迎えており、今年の7月号は173号。こちらも、全国大会と同様、毎号テーマが決まっており、最新号のテーマは「自分から進んで取り組む姿勢」というものです。毎号、中堅どころの教員が自分の考えを書いたり、何か書籍で発表したことのある教員が自分の書籍を紹介したり、関連書籍の紹介、諸外国の教育視察の報告、先輩教師や先輩校長へのインタビューなど、盛りだくさんの内容、しかも、美しい写真が満載されています。「メンセンキンデレン」は、最新号は会費を払っている会員だけが読めますが、バックナンバーは全てホームページからダウンロードでき、キーワード検索で論文を探すことも可能です。

ドイツでペーターセンが始めたイエナプランをオランダで受け継ぎ普及してきた人たちは、自分たちの力で、現場の実践に取り組み、取り組んだ実践を仲間と共有するために機関紙で発表したり、お互いを高め合いリフレクションし合う学習会を続けてきました。実践をその人の個人的な経験に終わらせず、仲間と共有し、若い人たちの継承に役立つものとして残していくためです。

協会は、全国大会の他に、新任教員のための研修会や、オランダのイエナプランの母に因み、スース・フロイデンタール講演会という日も設け、教員自身が学び、イエナプランの根本精神に立ち戻り、成長する機会を数多く設けています。さらに、地域ごとにお互いの実践を振り返り合い、自分たちの力で、実践

している教育がより質の高いものとして社会に認められるための研究会も行われています。

日本の協会が学べること

日本のイエナプラン教育協会が、初めに任意団体としてできた時、私は、オランダの協会の、上のようなあり方から学べることを、当時協会のお世話をしてくれている人たちと共有しました。

まず、いわゆる従来型の日本の「協会組織」とは異なるものであってほしい、と強く思いました。それは次のような点です。

まず、協会活動の担い手は、会員自身であること。つまり、会員は、パッシブ（受動的）に協会の事務局が提供する情報を受け止めるだけの人になってほしくないということでした。

協会の理事や事務局は、会員が、お互いに競い合うのではなく、お互いにゆるく繋がりながら、お互いから学び合うための手段を提供するための仕事をするものだ、と考えました。それが、おそらく、早い時期からの支部活動につながっていったと思います。

ただ、オランダのように、比較的容易に新しい理念の学校を、国や自治体の教育費を使って設立できる国とは異なり、日本でイエナプランスクールを設立するのは、とても困難です。ですから、すぐに学校を作って実践したくても、それはなかなかできることではなく、結局は、さまざまな縛りの中で、「できることから始める」しかない状況に、大半は今でも置かれていると思っています。そうだとすると、繋がり、可能性を広げ、限界を共有することで、国や自治体に何を求めていけば良いのか、子供達に対する責任をどう果たしていけば良いのかを、深く考え、共有する機会が必要です。それこそが、日本独自のイエナプランの発展へとつながるものであるからです。

他方、オランダのイエナプランが優れているのは、「実践しながら自分たちのイエナプランを作っていた」ということなのです。もちろん、ペーターセンの理念に則った上ですが、ペーターセンの時代には、まだまだ、大学の実験校で行われていた極めて理論的なものであったのを、なんと200校にも及ぶ数の学校で、教員たちが試行錯誤をし、お互いのリフレクションを通して引き出してきたものを共有しながら、少しずつ形を整えてきたものであるということです。

もちろん、初期にこの運動を率いたスース・フロイデンタールの存在は大きかったと思います。また、スースを支えて、研究を続け、研究主事として働いたケース・ボットさん、教員大学でイエナプラン養成コースを作ったアド・ブースさんたちの努力も大きなものでした。

でも、こうした人たちがリーダーとして支えつつ、現場の教員自身が「自分ごと」として取り組み、それをお互いの間で共有しようとしたことは、教室で子どもたちの主体性や対話を重視するイエナプランにとって、その理念のもとに働く教員の取り組みとして、とても意味のあるものであると思っています。

日本のイエナプラン協会のこれから

日本の協会は、任意団体としての設立から約10年を経た今日、日本にイエナプラン教育を広げるという大きな役割を成功裡に果たしてきました。長野に大日向小学校ができたこと、広島で公立校としてのイエナプランスクールが来年の開校に向けて準備中であること、つくば市や名古屋市も、自治体としてイエナプラン教育に関心を向けてくれたことなどは、それを象徴しています。ボランティアで働いてくれた理事や事務局員の皆さんの努力に、本当に頭が下がります。これも、関係者が、自分ごととして、自分の人としての、また、教育者としての成長を意識していたからこそできたことなのだと思います。

では、これからの協会は、どこに焦点を当てていけば良いのでしょうか。

私は、何よりも、会員の皆さんに、今以上に積極的で主体的な、イエナプランの担い手としての活動、イエナプランの精神を体現できる大人としての活動を期待しています。そして、協会事務局は、会員の活動をもっと目に見えるものにし、会員同士が学び会える機会をもっともっと作ってほしいと思います。協会は、会員よりも優れた人が何かを決めているというのではなく、皆が、同じ土壌に立って、お互いから学び合っている組織を象徴するものであってほしいです。

同時に、日本の仕組みの中で、どうイエナプランを根付かせていくことができるのか、日本で長く続いた学校文化の影響下で、どうイエナプランのメッセージを声高く述べ続けていくのか、なぜ、今イエナプランなのか、といった問いかけに対しても、多くの人が議論に参加し、何ができて何ができないのか、何かを実現するにはどんな制度改革を求めているかなければならないのか、と学び合い、議論し合い、社会に対して提案していける団体になってほしいと思います。そのためには、協会に研究部などを置き、会員の研究をまとめていく、何らかの仕組みも必要でしょう。

もちろん、共有と継承のためには、記録することが大切です。ニュースレターのあり方を見直す良い機会かもしれません。

他者にも自分にもポジティブであること、オープンであること

日本にイエナプランの名前を広げ、普及するという初期の目的を達成した今、これからイエナプランの担い手たちが問われているのは、「質をどのようにして向上、維持させていくか」という課題でしょう。普及が進んだからこそ、社会の目に触れ、社会からの批判の対象になるリスクも増えています。私たちは「なぜ」イエナプランに取り組んでいるのか、その価値はどこにあり、自分たちが設定した教育の価値をもとに、実践を向上させ、質を維持するため自主的にどんな取り組みをしているのか、を常に生きた議論として続けていくことは重要です。そのためにも、恐れることなく、お互いのリフレクションと交流を続けてほしいと思います。

私たちの実践を、私たちが大切にしているコンセプト「20の原則」や「8つのミニマム」また「コアクオリティ」などに照らし、自己評価をしていく仕組みも必要であると感じます。言い換えるならば、イエナプランの実践者たち自身が、イエナプランが目指す人間像に近づく努力をしているかを表明し、常に改善努力を続けている姿を見せ続けてほしい、ということです。

オランダ人はよく、「信頼されたかったら、信頼に値する行動をすべきだ」とか「信頼とは勝ち取るものだ」といいます。私たちは、これまでの教育にあえて異なるビジョンと方法を掲げて新しい学校教育のあり方を世に問おうとしています。そのためには、外にいる人たちが「なるほど」と納得できる成果を示すと同時に、自分たち自身が、常に振り返る姿勢を持ち続けていることをあえて示し続けていくことも大事なのではないでしょうか。

私たちの中には、誰一人として完全な人はいません。だから、他者の強みを素直に認め、それに習い、同時に、自分自身の強みにも自信を持ってほしいのです。自分の強みと弱みを率直に認め、そのことについて、他者に対して、包み隠さずにオープンでいてほしいとも思います。それが、教育者としての自分自身を向上させます。

イエナプランは、単に、子どもたちが心地よい学校生活を送れることだけを目指しているのではありません。私たちは、皆が、一人残らず自分らしく生きられる社会を目指しています。人生には大小の困難が

必ずやってきます。いつも健康で、なんでも願望を果たせる人生など存在しません。だからこそ、お互いの痛みを分かち合い、苦しい時にはお互いを励まし合い、一緒に乗り越えるために、互いの強みを共有できる関係を作りたい。そうやって生きていく子どもたちを育てるために、大人たちこそが、変わり、育っていかねばならないのだと思っています。

詰まるところ、教育改革とは、大人たちが変わることなのです。協会は、是非とも、そういう変わろう、変わりたいという強い意志を持って関わっている姿を見せ続ける集団であってほしいと思っています。その時にこそ、教育改革は、遠い未来の社会改革を目指すのではなく、その場で、同時に社会改革を成し遂げていく営みになるはずです。

人と人とを繋ぎ、お互いに隠し事なくあるがままでオープンに関わり合い、みんなで一緒により良い世界のために働いている、しかも遊びとユーモアを忘れることなく。これからも、もっともっとそんな協会であるようにと願っています。



私とイエナプラン（前理事の2人より）



＜前代表理事・事務局・新監事＞ 久保礼子

イエナプランとの出会いについてお話しする時にいつも使っているのが、当時の私の教師としての自分像を描いた右の図です。教師が、子どものためと思って一生懸命に道を踏み外さないように子どもを引っ張っていく。さらにできるだけこのリヤカーの乗り心地を良くするように頑張る。だが、一番頑張っているのは教師ではないか？子ども自身に力はあるのか？そもそも皆同じ道、それもとってあえず上の学校へ無事に進めるようにしているだけではないのか？



このような大きな問いにぶつかったのが教員生活25年を超えた頃でした。そしてちょうどその頃出版されたのが、リヒテルズ直子さんの著書『オランダの教育』と『オランダの個別教育はなぜ成功したのか』だったのです。この本で紹介されたオランダの教育システムとイエナプランの学校のあり方に衝撃を受け、私は2年間休職し、大学院に席をおいてイエナプランについて学び始めることとなりました。2007年大学院在学中にリーンさんが校長先生をされていたロッテルダム近郊のイエナプラン校に1週間お邪魔しました。子どもたちが先生の号令ではなく、自分の計画に沿って自主的に動く。皆がそれぞれ別のことをしているのに、人の邪魔になるような行動を取らない。分からないときに先生のところに行って質問をし、分かったときにみせる自信に満ちた嬉しそうな表情。サークルになって人の話を聞き、お互いに自分の意見や考えを伝える静かな朝の会や帰りの会。小学生である子どもたちがとても大人に見え、こうした成長を育むイエナプランとは何なのだろうと問いは増えていくばかりでした。また、私自身とてもリラックスしてその空間にいたことができた心地よい感覚を今も覚えています。「学校とは、日々を自然に過ごしながら一人ひとりが自立した大人になっていく場所なのだ」と確信した体験でした。

はじめてのイエナプラン校で私が大きく感銘を受けたのは子どもたちの自立した姿で、実はそれを支える協働の姿については充分捉えることができてなかったと、今振り返ると思います。日本の学校でよく言われる「協力し合う」に、私はどこか同調圧力を感じていて、あまりそこに興味を払っていなかったせいかもしれません。グループ活動や教え合う活動が一斉に行われていなかったことにホッとしたような記憶もあります。でも、子どもたちが自分の判断で責任ある行動をしていく裏には、自分で選ぶことや判断することに自信を持っていることがある、一人ひとりが大事にされていること、自分として尊重されていることを身体で知っている、そうした土台があるという気づきがありました。

この他者との関係性をより深く考えさせられるようになったのが、約10年後の2017年に参加したオランダ3ヶ月研修です。研修を終えて私の中にどーンと残った問いが「共に学ぶ」ということについてだったのです。オランダでお世話になったある校長先生は、イエナプランで一番大事なことは、「自分らしく

あること、そのために一緒に違ったやり方で学ぶことだ」とおっしゃいました。たまたま横にいた6年生の女の子は「学びのシェアよ」と即答しました。そうなんだと聞きながら「一緒に学ぶ」その感覚を探る自分がいたのです。「一緒に」といっても何かをするときに人よりも良く評価をされたい自分がいる。誰かの嬉しい気持ちを心から一緒に喜べない自分がいる。もちろん決していつもそうなのではないけれど、そんな自分を思い出すことは簡単だ。一方、相手の良さをそのまま認めながら、それぞれが持つ力を出し合って何かを作り上げていく、そのことを私はどれだけ実感として知っているだろうか。こんな事を考えながら帰国したのです。

今もまだ、彼らの言う「一緒に学ぶ」の核心の部分を充分つかみ得ていないと思っています。そしてこれは私個人の問題でもあるけれど、教育のあり方の影響も大きいと思っています。他者との比較や競争を学びのモチベーションとする教育と、違いを認め共に学ぶことをモチベーションとする教育と、その先を考えると、私はやはり後者の教育が生み出す社会に生きていたいと思います。

子どもたちが自立して学び成長している姿に出会って14年、イエナプランと私をつないでいるのはこのような想いです。2021年5月に無事理事を退任いたしました、もう少しだけ協会のお仕事を手伝わせていただくこととなりました。よろしくお願いいたします。



＜前理事＞ 中川綾

私がイエナプランに出会ったのは、2004年の秋でした。リヒテルズ直子さんの著書「オランダの教育（平凡社）」を知人から手渡され、「今度リヒテルズさんの講演会があるから参加しないか」と誘われたのが始まりでした。その頃から考えると、本の中の遠い外国のできごとであったイエナプランが、日本に住む自分の身体の中に大分染み込んでいることを感じます。そして、この17年の月日は、私の人生を変えるものになったことを、やっと今、大変重く冷静に受け止めています。

今年の5月に、協会の理事の任期終了に合わせて、理事と事務局を辞めさせていただきました。その時に「これでやっとイエナプランと純粋に向き合うことができるような気がする」という話を事務局の方々にした記憶があります。これは、大変正直な気持ちでした。

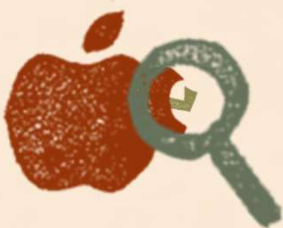
リヒテルズさんの、「日本にイエナプランを広めたい」という強い情熱的な想いに心が動かされ、「それは教育だけではなく日本そのものを変えていくことにも繋がっていくのだ」というお考えにも共感し、協会を立ち上げるお手伝いをするところから始まって今があるわけですが、この道のりは、私自身のライフワークのような、でも、ちょっといつも重い荷物を背負っているような、そんな日々でもありました。

事務局の仕事が辛いとか苦しいとか大変とか、そういうことではなくて、「イエナプランのコンセプトをもとに生きるとは」ということを常に問い続けていくのは、そんなに楽しくわくわくすることばかりではありませんでした。もちろんそれは、事務局を抜けたからと言って無くなる感情ではありませんが、

「協会の人」として前に出てイエナプランについて説明をしたり、イエナプランを共に学ぶ場を主体となつてつくったりすることに、いつも違和感があったことも事実でした。私はイエナプランを「知っている」人でも、「できている」人でも、「コンセプトに忠実に生きている」人でもないからです。イエナプランを「知ろう」としているし、「コンセプトを少しでも体現したい」と思っているし、「言行一致したい」と心から願ってはいますが、なかなかそこには辿り着けずにいる自分も知っている。だからこそ、「イエナプラン教育協会の中川さん」と言われる度に、「私なんかが、イエナプランについて説明したりしても良いのだろうか…」という気持ちを持っていました。

イエナプランのコンセプトは「生き方そのものだ」と、心の底から思えたのは、やはり大日向小学校を設立するまでの準備期間を経て、開校してからでした。コンセプトはあくまでもコンセプトなので、目指したり、立ち戻ったりするものだと思います。「出来ていなければ語れない」などという表面的な話ではなく、共に生きる人たちとコンセプトについて学び、語り、実現を目指し、そのように生きられない自分も互いに受け止めながら前に進んでいく。それはとても美しく、けれども大変苦しく辛いことでもあり、驚くほどに幸せなことなんだとも思えたのです。

「イエナプランのコンセプト」は、多くの人を魅了し、協会の勉強会や講演会に多くの人たちが集まってきていると感じています。それは、ペーターセンや、フロイデントール、そしてリヒテルズさんが、世界に向けて立てた旗が、大きく力強かったからです。と同時に、コンセプトは抽象度が高いため、魅力的な言葉たちを、それぞれの価値観で解釈したり受け止めたりして集まってきているのを感じています。それは私達が多様であるからこそであり、同じように惹かれたはずのコンセプトに対してのズレを感じることから始まるのだな、とも思うのです。それを感じた時に、本当の意味で、「イエナプランはすごいな。」と呟く私がいました。だからこそ「点を面に」を目指す協会の存在は、大変重要だと思っています。どうぞこれからも民主的で、誰もが学ぶ機会に恵まれる環境をつくり続けてください。私もそのような生き方ができるよう、努力したいと思います。



その2

私とイエナプラン 理事・事務局より



<新代表理事>

はじめまして。今年の6月より代表理事を務めています、
土岐幸司（ときこうじ）と申します。

【イエナプランを知ったきっかけ】

私とイエナプランとの出会いは2012年頃のことでした。大学卒業後の私は、個人で学習塾を9年間運営していました。その塾を廃業し、心機一転、関西・北陸の学習塾をまわる教材の営業マンをしていた時のことです。営業先からの新幹線の中でリヒテルズ直子さんの「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」を読んだことがイエナプランを知るきっかけとなりました。営業マンとして各地の塾を回りいろいろな方と話をするのは楽しかったのですが、受験、成績などの枠内での話しかできていない事に満たされない、もんもんとした気持ちでもありました。受験用の勉強をすることと、社会に出てから生きていくことの間の乖離について大人として納得する答えを持てずにいて、これでいいのかな？と思っていました。イエナプラン教育は、社会と学ぶことについて嘘やごまかしがなく、「これだ！」と扉が開いた感じがしました。

【イエナプランを知ってから今まで】

今、改めて振り返ると、あの新幹線の瞬間から「イエナプラン」を通じて、人生の幅が広がったと思います。

はじめは、ワークショップなどイベントの一参加者として。そして支部の学習会やオランダの1週間研修に参加し、少しずつ知り合いの方が増えました。どの場も私にとってとても居心地が良く、職場と生活の場ともう一つの新しい場、大人のサークルのような場でした。そして2年前、理事選挙に出て理事になりました。理事の任期は4年ですので残りの2年、代表理事を務めさせていただきます。理事、事務局の仲間と共にイエナプランを通して良い社会づくりの一助となれればと考えています。もちろん会員のみなさま、イエナプランの場づくりに取り組んでいる方々もどうぞよろしくお願いいたします。

【今まさに感じること】

今まさに感じていることは、イエナプランを通じて人生の幅の広がりだけでなく、自分の生き方に柱ができてきたように感じている、ということです。そしてそれがとても心地いいです。

私の学習のスタイルはゆっくりで、じーっとそのことについて頭の片隅で考え続け「あ、そういうことか!」と気づいて理解するスタイルです。子どもの頃に「金と銀はなぜ金の方が価値のある扱いをうけるのか?」を何年も考えていたことがあります。そういうマイペースなタチなので頭ではわかっていても「そういうことか」がなければなかなか知識に肉がつかないです。そんな私がイエナプランを知って9年、ようやくわかってきたことをお伝えしたいと思います。

本当にシンプルな事ですが、それは「人を大切にしてい」「共に生きる」ということです。そしてこの2つのこと、「人を大切にしてい」「共に生きる」を「当たり前」の前提として、またさらに深く考えていける人たちがいる場合、イエナプランの場の始まりなのだろうということなのです。

例えば、「人を大切にする」ってどういうことか、そして反対に「人を大切にしない」とはどういうことか、言葉というのは嘘をつきますから「大切にしている」と言ってもそうでない態度や行動がいくらでもあります。優しい顔の「あなたのため」の嘘や、反対につきはなしたような「それは任すよ」が相手のための畏敬の言葉だったり。

そんなイエナプランの基本中の基本についてわかることができたのは、イエナプランを学ぶ一方で、日本の中にある「当たり前」の価値観に一定の距離をとれるようになったことがきっかけです。最近の言葉で言えばアンラーニングでしょうか。このことで、イエナプランを前よりもシンプルにとらえられるようになりました。逆を言えば日本の中にある「当たり前」、例えば上下関係などの価値観から離れずにイエナプラン（や他の価値観）を受け入れようとすると混乱が生まれるのではないかな、と思っています。イエナプランを学び始めた方に「気をつけてください!」とお伝えしたいです。

私が以前、とあるオルタナティブスクールに見学に行った際、肯定的な感想をSNSに書いたことがあるのですが、「理想と現実。こんな学校では社会では生きていけません。子供がかわいそう」というコメントが書かれたことがありました。「どういう点でそのように感じるのですか?」と伺いましたが返信はいただけませんでした。おそらく、受験のための勉強をして、いい大学に入らなければ、もしくはその価値観でいなければ社会で生きていけない（落伍してしまう）と思われるのかなと、あくまで私の予想ですが思っています。「社会では生きていけない」という言葉、ときどき発する人がいますが、そう育てられてきたり、本人もつらい思いや悲しい思いをしてきたんだろうなと思います。でも、とても強い言葉で恐ろしいなと思います。

日本の社会について、みなが思っていると思っている当たり前とは、例えば上下関係、競争、不安。他にも「当たり前」はあると思いますが、特に日本の教育からよく触れる価値観はこの3つの価値観です。

「上下関係」は、戦争の影響で国（お上）が民をコントロールするために過度になり、「競争」は戦後の経済発展の時に促され、そして「不安」はバブル崩壊以降、非正規の問題など様々な理不尽を見て抱いてきたように私はとらえています。それらが入り混じって、今の日本の人々の「当たり前」になっているように感じています。その入り混じった苦しい「当たり前」を心に持ったまま、距離を取らずにいたら、イエナプランの考え方、「人を大切にし」「共に生きる」を受け入れるのは難しいのではないのでしょうか。

「『人を大切にしてい共に生きる』、確かに大切ですね。でも残念ながら、私はやることあるんです。」と日本だと軽くあしらわれたり、相手にされないということがよくあります。そして「やること」といっても実はとても内向きで、スマホだったりします（笑）。多忙で余裕がないせいもあるかなと思い

ますが、最近の私は「スキンシップ」の不足も大きいのではと考えています。海外に行くと、さまざまな違いを感じますが、その中でも人が人に触れることを大切にしているのを感じます。日本は徐々に他者との間の壁が高くなり、肩が触れただけでもハッとするようになってきました。スキンシップから得る安心感、「大切にしてもらっている」感覚みたいなものが不足して、ひねくれて内向きになってしまう。スキンシップが増えるともっとオープンに対話ができるのではないかなと頭の片隅で考えています。ぜひみなさんと話したいテーマです。

さて、前半で生き方の柱ができてきたように感じているとお伝えしましたが、それは自分の役割を得たことによります。

自分の役割とは「人を大切に」「共に生きる」ということを大切に、当たり前だと思う人を増やすこと。そしてさらに一見、相反するするような、それでいて切り離せないこの2つについて深く考える次世代の社会人を育てられたらと思っています。そしてどう育てるか、私自身がその価値観を持ち彼らに接すること。私は数年前から再び小さい学習塾を運営しているので、まずはそこでのお話です。

これからの人々は、自分の箱に入っている価値観を入れ替えるなんて面倒なことはせずに、ぜひはじめからこうした価値観で育ててほしいと思います。そうやって日本の社会も次の段階に進んでいくのかなと思っています。



<新理事> 原田友美

会員の皆様

この度理事に就任いたしました、原田友美と申します。これから4年間の任期中、日本でのイエナプランの発展のために力を尽くしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

現在は、長野県佐久穂町に2019年に設立された学校法人茂来学園大日向小学校でグループリーダーをしています。イエナプラン教育の理念を、日本の環境の中で実現すべく、日々学び、実践している真っ只中です。

* * *

私がイエナプラン教育に出会ったのは2014年。当時公立小学校で図工専科教諭をしていた私は、書籍でイエナプランの存在を知りました。学校現場ですっと感じていたモヤモヤや、図工という教科への考え方の変化などもあり、「ここに私が求めている何かがある！」という直感に近いものがありました。リヒテルズ直子さんの来日イベントが予定されていること知り、すぐに申し込みました。そのイベントでお聞きしたイエナプラン教育の理念、在り方に感銘を受け、「もっと学びたい！」と強く感じたのを今でも鮮明に覚えています。それから勉強会などに参加しながら、少しずつイエナプラン教育について学びを進めてきました。1週間のオランダ研修、3ヶ月の専門教員資格取得研修にも参加。イエナプラン教育のことを知っていくにしたがって、その理念と在り方が、自分の中でどんどんと繋がってくる感覚があります。そしてここがとても不思議な感覚なのですが、イエナプランを学ぶほど、自分自身の世界を見る目も変化していくような気がしているのです。

* * *

この感覚はなんなのだろう、とじっくり考えることがあります。今のところの答えは「イエナプラン教育の理念と、それを現実のものにしていくための手段が、自然の摂理に沿ったシステムだからなのではないか」ということです。

どういうことかと言いますと、イエナプランスクールは”自律と共生を学ぶ学校”とされています。独立した一人の人間として、自分の人生を自律的に生きること、それと同時に、自分以外の、時には価値観が大きく違う人たちと共に生きること、それを学ぶことこそが目指す方向であるという考えです。このことは、自然界や社会全体にもそのまま当てはまるシステムなのではないでしょうか。自然界の植物や動物たちは、有機的システムの中で、お互いに依存しながら生存してきました。また社会というものも、ひとつの仕事がさまざまなことと影響し合い、複雑な社会を形成しています。イエナプランスクールは、小さな自然界であり、小さな社会なのではないかと感じるのです。

また、イエナプランでは、子どもの学ぶペースや個人のユニークさを大切にしています。これも、生き物として一人ひとりがもっている個性を大切に、自然の摂理に沿ったものであると感じています。

* * *

しかし、それを学校やクラスの中で実践していくには、ただ自然に任せるというわけにはいきません。私たちは、どのような環境設定をしたら、教室や学校が「小さな自然界」「小さな社会」となり、有機的ネットワークを現実のものにできるのか、どのような関係性を築いていけば、子どもたちのユニークさを活かすことができるのか、学び、考えていかなければいけないのです。常にイエナプランの理念に立ち戻りながら、学校という場でどのようなシステムが形成されているのか、感じ取っていくことが大切だと考えています。

* * *

今感じているイエナプラン教育のイメージは、1本の木です。"ブロックアワー"や"ワールドオリエンテーション"、"週計画"や"サークル対話"など、目に見える形としてそこに育っています。しかし、その木は、支える根なしには立つことも育つこともできません。根は見えませんが、土の深く深く下にまで根を張っています。根は理念です。理念の支えがなくては、目に見える活動は生き生きと育つことができません。学校で行われる活動が、なぜ、そのような形で行われているのか、根の部分をしっかりと自分自身に張っていくことが重要だと感じています。そしてそれは、一人の力では成し遂げることができません。イエナプランの理念に惹かれる方たちと一緒に、日本にイエナプランを根付かせていくことができたなら、なんと幸せなことだろうと感じています！



<新理事> 平山直樹

「JKがあんぱんをくわえて走った」

これは探究の時間に行った、高1女子Uさんの実証実験の一コマである。彼女がなぜあんぱんをくわえて走るにいったか？それは「少女漫画のような恋をして今年こそクリスマスデートをしたい！」という情熱が彼女にあったからだ。これを実現するために、彼女は夏休みの個人探究のテーマを「少女漫画のような恋をするためにはどうすればよいか？」という問いにして探究を進めた。

彼女の探究の手順は以下の通りだ。

①（ゴール設定）

少女漫画のような恋をして、94日後のクリスマスにデートをする

②（調査・分析）

少女漫画を読み漁り、少女漫画共通の要素にはどんなものがあるのかをリサーチする

③（計画）

少女漫画共通の要素の中で、自分でも実行できるものをリストアップし計画を立てる

→街中でハンカチを落とす、朝遅刻しそうになって食パンを加えたまま家を出る など

④（実証実験）

あんぱんをくわえたまま近所を走ったら、少女漫画のような恋が生まれるかを実証する

⑤（結果）

「ちょっと惜しいこと」が起こった！

→曲がり角で男性とぶつかりそうになって"!"となった

⑥（考察）

正直、こんなことをやってみても何も起こらないと思っていたけど、実際にやってみるとちょっと惜しいことが起こって驚いた。今後は他の方法も検討して試しクリスマスデートしたい。それと、パンをくわえて走ると自然と顎が動いて、気づいたらパンが無くなることがわかった（食べてしまっていた）。

⑦（発表）

クラスの仲間に対して発表し、質問やフィードバックを受ける。具体的には、次回はスクランブル交差点のような比較的通行量が多い場所で実施すれば確率が上がるのでは？などの意見があがった。

彼女の探究の発表時は、教員も生徒も大いに沸いた。大阪で聴衆の笑いをとることは最高の名誉で、誇らしいことなのだが、彼女の探究は笑いを狙ったものではなく真剣そのものだった（その真剣さがまた最高に面白かった）。

担当教員として嬉しかったことは、彼女の探究の学びが自分のリアルな生活と密接に繋がっていたことである。日頃から、自由に探究できるような雰囲気作りはしていたが、ここまで思い切りやってくれと嬉しい。大学受験が中心となった授業で窮屈している彼らにとって、ある種の「解放区」として探究の時間が存在していたのかもしれない。当然、この探究には未熟な部分もあるが、前向きさと行動力が今後の成長を期待させる。また、彼女が「パンくわえて走っても何も起こらないでしょ？」と思っていたにもかかわらず、実際にやってみると予想以上のことが起こった。「とりあえずやってみなはれ」の大切さであり、面白さを肌で感じてくれたことも嬉しかった。

実は、僕は彼女の発表を見て、元気を取り戻した。パンをくわえて走ってる彼女に対して面白さを感じると共に、なぜ自分はパンをくわえて走っていないんだ？という自問自答という名のエネルギーを得たのだ。

2021年の1学期は、もう本当に七転八倒の毎日だった。これは果敢にチャレンジしたがうまくいかなかったというような生産的失敗ではない！（断言） 気持ちがいんどくていんどくて、学校を休んでしまったことも3、4日あった。週末に、3歳の息子から遊びに誘われても応じる気力も出ず断り、このニュースレターの原稿依頼を見ただけで「んなもん書けるわけないやん……」と世界の終わりのような気持ちになった。そんなどん底の日々を過ごしていたし、夏休みを終えた今でも、低空飛行は継続中なのである。自分自身がこういう状態だったこともあり、イエナプランと向かい合うことがテーマとなった、この原稿を書くことには大きな苦悩があった。ニュースレター担当の方々の温かく思いやりのある督促を幾度となく受けながら、首の皮一枚繋がったところでなんとか書き終えた。

僕は今、イエナプラン教育が、自分が公立中学校でやってきた10年間の教育といかに違うかということに改めて感じている。イエナの美しいコンセプトを実現することの大変さを肌で感じている。その大変さに僕は見事に打ちのめされているわけなのだが、このまま終わるわけには・・・あの「あんぱんJK」を見習い、ユーモアを忘れずにパッションを持って、とりあえずやってみよう！やってみれば、何か気づく。気づきがあれば前進できる。こんな言葉を絞り出せるまでには元気になった。今回もまた、生徒が僕にエネルギーをくれた。



<新理事> 矢澤あいり

初めまして！この度新たに理事・事務局となりました矢澤あいりと申します。どうぞよろしくお願いいたします。普段都内の保育園で保育士をしており、「保育とイエナプラン」を私の中のサブタイトルとして、皆様と共に学んで行けたらと思っております。

そんな私とイエナプランの出会いは、私が学生時代一人旅でオランダに行った時のことでした。旅行ついでに海外の教育視察に行きたいなと思い、「オランダ 教育」と検索するとイエナプランが紹介されている記事を見つけ、そこから本を読んだりするたびに、イエナプランの魅力に惹かれ早3年が経ちました。

まだまだ、学ぶことはたくさんあり、誰かにイエナプランとは何かと説明をしてほしいと言われると説明できる自信はありませんが、私は「共に学ぶ」イエナプランのコンセプトが好きで、保育をする上で、「子どもとともに学ぶ」ことを自分の教育観の軸として日々子どもと関わるよう心がけています。

そもそもなぜ、私が海外の教育に興味を持つようになったのかというお話を少しさせてください。高校生活をブラジルで過ごした私はIB（国際バカロレア）教育を受け、そこから海外の教育に興味を持つようになりました。理由としては、勉強が楽しい！と思えるようになったからです。

IBは、イエナプランの特徴の一つ“ワールドオリエンテーション”のような探究活動があったり、日々の授業においても自分が気になった「日常の不思議」について仮説を立て、実験をして結論をレポートにまとめたり、パワーポイントにまとめ発表をしたりする機会があります。一見聞いただけだと大変そうだと感じるかもしれませんが、私は自分の中にある「不思議」を調べることができ、誰かに教え込まれるわけでもなく、自分で考えることが何よりも楽しかったです。こうした経験は、実際このような記事を書かせていただく機会を得た際や、社会に出て、人前で話すようになった際に改めて、活かされているんだなと実感します。

ではなぜIBを学んだ私が、イエナプランの魅力にここまで惹かれたのか。それはおそらく、先ほどもお話しした「共に学ぶ」というコンセプトに加え、社会に根付いた教育を常に考えているからだと思います。高校生活を経て、勉強とは、遊びであり、社会を学ぶことであり、社会に出るための準備期間であることを考えています。学校も社会の中の一つに過ぎず、影響を受け・与え続ける存在である必要があると思います。そのためには、自立した学びと人に愛され・自分の輝ける場所を見つけられる”大人”へと成長する場所が必要なのではないでしょうか。そんな場所を「このように作るんだよ」と道筋を与えてくれているのが私にとってはイエナプランであり、魅力に惹かれた理由でもあると思います。

ここまでイエナプランを通して、私の理想を語ってきましたが、私自身、今年から保育士になり、実際に現場に立つことで、理想と現実の壁に突き当たることがあります。「共に学ぶ」重要性を頭ではわかっていても日々の忙しさにふとそれを忘れて、少し楽な「教え込む」保育・教育をしてしまいそうになる私を私がみて、「あー、やってしまった」と何度も反省をしています。そんな時に、イエナプランで日々の保育を振り返ると、「そうだ、そうだ」とまた頑張ろうと思えることができます。

「共に学ぶ」ことが大切なのは、子どもに限らず、人間全ての人にかかる言葉だと思っています。私はこの度、理事をやらせていただき、日本イエナプラン教育協会の理事・事務局の皆様と共に学ぶ機会を経て「考える」ことの楽しさを改めて感じています。イエナプランに魅力を感じ会員になってくださっている皆様にもきっとそれぞれが感じる「イエナプラン」の魅力があると思いますが、共通して言えることは、イエナプランが「いいな」と思った瞬間があるということだと思います。そんな共通点をもつ皆様とこれからも共に学んで行けたら嬉しいです。

誰かと学び続けたいと思わせてくれる、それが私にとってのイエナプランです。





<理事> 川崎知子

初めて「イエナプラン教育」を知ったのは、2009年に『いま「開国」の時、ニッポンの教育』（尾木直樹・リヒテルズ直子著）を読んだ時でした。その頃は、オランダの子どもの幸福度の高さや、イエナプランの「教室はリビングルーム」という考え方にとにかく惹かれていました。

あれから12年経ち、オランダでも2年暮らし、公立のイエナプランスクールの正式開校の準備に携わらせてもらっている今、「イエナプランが好きだなあ。」としみじみと感じています。ある意味、ずっと「突っ張って」イエナプランをやりたい、イエナプランしかない、と思って来たけれど、そうではなくて、オランダ風に心に余裕をもって「自然にイエナプランになっていた。」という学校・社会を目指していきたい、きっと目指せると今は思っています。

理事としての任期の折り返し地点となりました。皆さまと共に、「共に生きる」社会を目指して軽やかに進んで行きたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



<理事> 山ノ井 芙美

私とイエナプランの出会いは『公教育をイチから考えよう』というリヒテルズ直子さんと苫野一徳さんの本でした。今回は「わたしとイエナプラン」というテーマをいただいたので、イエナプランに出会い、惹かれるきっかけとなった、ある学校での勤務経験について書こうと思います。

イエナプランを初めて知った頃、私は公立高校の教員で、いわゆる教育困難校で担任を持っていました。友達と会ったりおしゃべりをしたりすることは大好きだけれど、学校で展開される教育活動にはほとんど興味を示さない生徒が多くいました。授業だけでなく、あらゆる活動が難しい学校でした。生徒たちのエネルギーはとても大きくて、今思い返してみれば、すさまじい学校生活でした。私たち教員は必死に生徒たちを追いかけてまわして、何とか彼らが学校生活に目を向けてくれるように一生懸命でした。

ある日、教室で授業を始めようとしても、椅子にふんぞり返って机に脚を乗せたまま、一向に動こうとしない生徒がいました。私が「授業始めようよ。」というと、彼は「やーだよ。」と言いました。私が「なんで？」と返すと、「学校はオワコンなんだよ！」と彼が言いました。「オワコンってなあに？」と聞いた私に、クラスの他の生徒たちが、オワコンっていうのは「終わったコンテンツ」のことだよ、と教えてくれました。

「オワコン。」この言葉は衝撃的で、それから2日くらい私の頭の中で「オワコン、オワコン、オワコン・・・」とその言葉がハウリングしていました。生徒が学びたいこと、やりたいこと、目を輝かせることをほとんど提供できていないこの学校は、自分たち教員は本当にオワコンだな、と。なんて的を射た言い方なんだろう、という衝撃でした。

どうすればいいのか、いつも同僚と悩み考えていました。色々な本も読みました。そんな中で出会ったのが、リヒテルズさんの本でした。一斉授業ではなくて、ブロックアワーのように一人一人が自分のペースで学ぶことができれば、生徒はもっと学ぶ意欲をもつのではないか。問いから学びが始まれば、生徒がもっといきいきとするのではないか。オーセンティックな学びなら、もっと生徒がのめり込むんじゃないか。どんな風にすればいいんだろう。やってみたい。そんなことを思ったイエナプランとの出会いでした。

また、私服で遠足へ行ったある日、クラスのやんちゃな生徒たちが真面目な顔で私を取り囲み、「ふみ〜（私の名前）、なんでそんなに私服がダサイんだよ。俺たち、担任がダサイとホントに恥ずかしいんだよ。」と言ってきました。何を失礼な、と思いましたが、確かに彼ら皆センス抜群。自分の個性や体型をわかってとてもおしゃれでかっこいいのです。「ふみはさ、俺たちに比べて勉強はできるかもしれないけど、おしゃれとか服の世界だったら赤点だからな。」と言われて、確かに！と大笑いしました。とても複雑な家庭環境で大変なことをたくさん抱えていただろうある生徒は、いつも穏やかで優しく、こちらが話を聞くつもりが、なぜかいつも私が話を聞いてもらっていた聞き上手でした。それぞれがここに書ききれないほど個性豊かで多才な生徒たちでした。

誰もがかけがえのない価値を持っている、というイエナプランの人間観に私が強く惹かれるのは、あの学校で過ごした生徒たちとの強烈な3年間があってこそだと思っています。今私は公立中学校に勤務しています。イエナプランのコンセプトと、これまで出会った生徒たちに教えてもらったことを心に留めて毎日がんばっています。



<理事> 若杉逸平

はじめに、ニュースレターをお読みのみなさま、2年ほど前から弊協会の理事・事務局を担わせていただいています、若杉逸平と申します。「わたしとイエナプラン」というテーマにそって、わたしが今まさに想うこと・考えること・感じることを書かせていただきますので、お読みいただけたら幸いです。どうぞよろしくお願いします。

『“出会い”・“ご縁”・“つながり”』。

「わたしとイエナプラン」というテーマから感じたイメージを元に、パッと思いついたのがこの『“出会い”・“ご縁”・“つながり”』という言葉でした。

わたしがイエナプランと出会ったのは5年ほど前になります。今回の記事を書かせていただくにあたり、あらためてイエナプランと出会ってから今までの思い返してみたところ、実はイエナプランに出会ったことがきっかけとなり、人との出会いが生まれ、今のわたしにとってとても大切な仲間ができていたことに気がつきました。

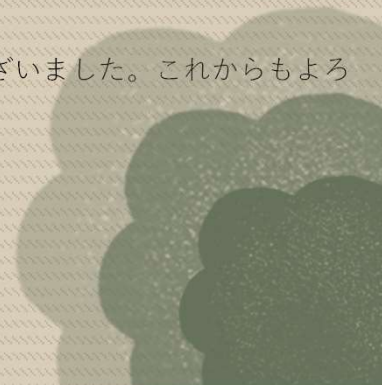
生まれ育った地元名古屋の大学を卒業してから、そのまま地元で公立高校の教師として働き続けていたわたしは、他の地域へ自ら足を運んで教育についての学びの場に参加することはほとんどありませんでした。そんなわたしが、教師となって10数年が経ったころ、ただ一生懸命に学校の現場を大切に働いていたころ、ちょうど自分が経験してきた教育に対して違和感を持ちはじめていたころにイエナプランに出会いました。

出会ってからのわたしは、あれよあれよという間にオランダで開催されたイエナプラン研修会や、東京や大阪などで開催されたイエナプランの学習会や全国大会に時間をつくって参加するようになっていきます。学ぶことの楽しさに取り憑かれ、カラッカラのスポンジが勢いよく水分を吸収するように。いつでも、そしてどこまででも行くぞという感じで。今思い返すと、確かに学ぶことそれ自体が楽しかったことも事実ですが、わたしにとってはひょっとするとそれ以上に、イエナプランに惹かれた者同士が学びの場で出会い、そしてその人と話をできることに幸せを感じていたことがもっと楽しかったのだと思います。

そして、出会えた全ての人とというわけではないですが、学習会や研修会が終わって離れ離れになっても、その後いつかまた会って話したいと思える仲間ができました。頻繁に会うことはできなくて、いつもは離れたところにいる仲間ですが、普段はFacebookやInstagramなどのSNSを使ってお互いの活動を感じたり知ったりしています。最近では、昨年からコロナ禍となったことの影響により対面で会うことが以前よりも難しくなってしまいましたが、その分、オンラインを利用して会うことが普及したことで、自宅にいながら日本全国津々浦々、離島やオランダなどの外国に住む仲間ともパソコンやスマホの画面越しに会えるような環境になりました。

このようにわたし自身もそうですが、これまでイエナプランとの出会いをきっかけにして、多くの人々の出会いが生まれていたのではないかと思います。そしてこれからも、人々が出会い話することができる機会を仲間たちと一緒につくっていかれたらと考えています。イエナプランとの『“出会い”・“ご縁”・“つながり”』、そして、イエナプランをきっかけとした人との『“出会い”・“ご縁”・“つながり”』を大切にしながら。

まとまらない文章となりましたが、最後まで読んでいただきありがとうございました。これからもよろしく願います。



<事務局>



石井七実

皆さまこんにちは。4月より事務局として協会に関わっております。今は現場を離れていますが、ずっと幼児教育のフィールドで仕事をしています。現場を離れてみてより幼児教育の大切さや奥深さを身に染みて感じている最近です。

私は大学時代からドキュメンタリー映画を観る事が好きで、と言いましても毎度重たい気持ちになるのですが…。そんな中で、「私とイエナプラン」というテーマを考えた時に、「共に生きる」ことを真剣に考えて話し合える仲間に出会い、そのような仲間を増やすことのできる方法の一つがイエナプランなのではないかと思っています。

4月から既に多くの方々と様々なテーマで対話する時間があったこと、そしてこれからお会いする方々と共に未来に向けて語り合えること、嬉しく思います。この日本イエナプラン教育協会を通して皆さんを繋ぐこと、そして皆さんと繋がれることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。



岸野麻子

事務局の岸野です。

自由が大好きです。周囲の思いに寄り添うことも大好きです。よく「自由やね」とか「行動力あるね」と言われます。自由であることは楽しいことだけではないのですが。。。自由であるために大きな失敗もしました。大きな失敗だけあって大きな転機にもなりました。これまでいろいろな職歴を経て、今年の4月からは公立小学校の教諭をしています。職員室で初めての自己紹介で「座右の銘は自由です」と小石を落としたあの日から私のイエナプラン教育実践が始まりました。できるだけ多面的に物事をとらえたい、おかれた環境で周囲を巻き込みながら自然と私の実現したい「社会をより良いものに」「社会に主体的に参加する」という思いを伝えられるように、その時を狙っています。そして、あっという間に半年が過ぎ、今まさに思うことは「安心、安全の中に学びがある」「対話・遊び・催し・仕事をリズムカルに教室に限らず、職員室、保護者、地域との間で展開していく」ことでより充実したものになるということです。どう仕組んでいくか、「今」という瞬間を逃さないようにアンテナを張っています。毎日クタクタです。



末永 静

はじめまして。六月より事務局のお手伝いをさせていただいております、末永静です。イエナプランと出会う前、世の中のほとんどの事には「正解」があると信じていました。正解の先生になりたかったし、正解の子どもを育てたかったのです。でもイエナプランと出会い、そうではなかったと知りました。正解も何も、人はみんな違って当たり前なのに。

イエナプランと出会って、目の前の子どもの「今」だけに向いていた視点が、その子の人生や、その子が作り出していく社会へと、広がっていった気がします。「正解でない」と自分や子どもを責めたくなくなるような息苦しさは、よりよい社会を作るためには、全く必要でなかったと感じました。

同時に日々の暮らしの中でも、「目の前」だけに向いていた視点が広がり、自分と世界とのつながりを考えるようになりました。それまで何も考えずに喜んでいた、安さやサービスは、誰かの悲しみの上に成り立ってはいないかと、考えるようにもなりました。

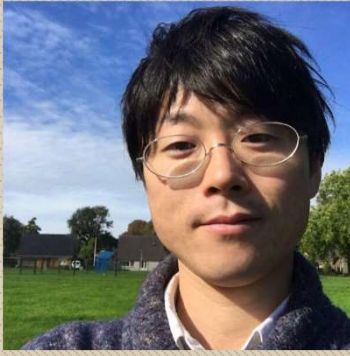
私はイエナプランと出会って日は浅く、事務局としてできることもまだまだ微力ですが、少しでもイエナプランを学びたい人たちの役に立って、世界をよりよくできたらいいなと考えています。何より、共に学べる仲間と出会えることを、とても嬉しく思っています。



服部 剛典

2019年から協会事務局として参加している服部剛典（はっとりたけのり）と申します。よろしくお願いします。私のイエナプランとの出会いは、現理事の若杉さんの紹介でした。2015年の6月に愛知（名古屋）支部の立ち上げイベントを若杉さんと開催し、30名近くの方に集まっていただきました。とても懐かしい思い出です。

私がイエナプランの特長として感じていることは、「オープンモデル」であるということです。コンセプトを大切にし、それを実現するための手法がオランダの先生方を中心に育まれてきたものの、これをすればイエナプランというものではなく、各地域や実情に合わせて手法は変わっていくことができるという考え方がとても気に入っています。少しずつ日本にもイエナプランが広がりつつあり、多くの先生方の教育実践も増えてきました。今後も、多くの方とより良い教育とは何か考え続けながら、イエナプランのコンセプトを大切にしていきたいと思っています。



濱大輔

昨日は、心揺さぶられる日だった。昨年度担任していたダン（仮名。当時1年生で、今は2年生）の通うダンススタジオの発表会にお呼ばれして…。

曲目の多くは、HIP-HOP。スモークが焚かれたステージに、カラフルなスポットライト。衣装は、ダボダボ。重低音にお似合いの化粧もバッチリ、編み込みの長髪をブルンブルンと揺らせる幼稚園児(?)までいる。

うーん、キマってる！

セッション、開始。次々にパフォーマンスが繰り出され、ダンのチームも登場！ 客席の大人たちは密を避け、声を出さず、精一杯の手拍子で応援。もちろん、ぼくも一緒に手を叩く。ダンのおばあちゃんは、あまりに強く叩きすぎて掌につくった青アザを見せて、こう言った。

「ばあば冥利につきます！」

ダンスはキレキレ、アドリブも最高。でも、何より印象的だったのは、みんな「とにかくダンスが好きなんだ」ってことだった。そりゃあ、そうだ。あんなに夢中で踊られちゃったら…。

フィナーレ。スタジオの代表と思しき先生がマイクを取った。

「（コロナ禍での開催で）いろんなご批判があるのは分かります。でも、なんとか出たいという子どもたちを前にして、ぼくにはこうするしかなかったです…！」

彼は涙を堪え、でも力強く語った。ああ、人間が美しい…。そう思った。

そして、続けてぼくに、この言葉が降ってきた。

——— どうしてこれが学校じゃないの？

・・・・・・・・・・・・・・・・

イエナプランを知ってから約10年。
オランダでの3ヶ月研修から4年。

日本の学校が、もっと人間らしい場所になること。
ペーターゼンの名付けた「人間の学校」を、心がずっと求めています。

一緒にイエナプラン、ぜひしましょう！



第2回日蘭アカデミー (イエナプラン専門教員資格取得研修) 研究発表報告

2019年にオランダで行われた3ヶ月の資格取得研修の集大成として日本イエナプラン教育協会にて2回目の研究発表会が7月31日に行われました。

※オンラインにて実施したものです。

4つの実践発表を発表順に紹介します。

「すぐできる！特別支援学級のイエナプラン」 菊池 有加莉

「自立できることに幸せを感じる」オランダで感銘を受けた言葉を胸に子ども達発信のワールドオリエンテーションを周りの先生方と協力して行った実践報告。

「中学社会科におけるブロックアワーの実践」 平山 直樹

教科担任制である中学校におけるイエナプラン実践。1週間（50分×3コマ）の中でどう学びをデザインするか、一つの「個別最適化」の形を提案そして実践報告。

「ワールドオリエンテーションの実践報告」 原 直希

公立小学校3年生の担任の試み。「ワールドオリエンテーションは繰り返し行う事でできるようになる」と地域を巻き込みながら行った1年間の実践報告。

「学びを最大化する学校空間デザイン～明日が待ち遠しくなる学校へ～」 山口 竣平

皆にとって心地よい学校とは？イエナプラン校への実習などを通してクラスの空間デザインを考えた。できることからまずはクラスに一輪の花を提案。

そして、せっくなので昨年実施された1回目の発表会の内容も紹介します。2つの発表がありました。

「イエナプランと作業療法」 森田 隆之介

見学したイエナプラン校を参考に施設の環境設定を見直した。特に子どもがリラックスできるスペースに力を入れ、周囲の理解も得ながら少しずつ進めている。

「日本版ゴールブック～子どもに学びのオーナーシップを～」

石井七実/岸野麻子/北川航次/北林和樹/中野みなみ/松林紗世

オランダで子ども達が学びのオーナーシップを持つ為に作られたゴールブックの共同研究。学習指導要領を元に「日本版ゴールブック算数」を作りました。

皆実践を通して沢山悩み、上手くいった点も反省点もありますが、今までもそしてこれからも様々な形で自分らしく奮闘している研修生の研究発表概要でした。

日本版ゴールブック モニター中間報告

2020年12月に「日本版ゴールブック～子どもに学びのオーナーシップを～」の共同研究発表を行いました。発表では、子ども達の主体的な学びのためのツールとしてのゴールブックについて、そして「日本版ゴールブック算数」の説明をしました。ゴールブックとは、オランダのイエナプラン専門家が作成した冊子です。内容は、オランダの中核目標（学習指導要領）に基づいて、「既に学んでいること」「今学んでいること」「これから学ぶこと」を子どもが自身でよく分かるようにリスト化されています。日本では指導要領を参考に作成しました。そして発表の際に募集したモニターの皆さんと共に月1回程度モニタリングを行っております。いくつかコメントを紹介しますと、「教科書やテストのやり直しに縛られなくなった」「教員にとっても学ぶべきことが明確になった」「ゴールブックは学ぶべきことが簡潔に書いてあるので子どもとの具体的な振り返りがしやすい」等です。今回は教員からのコメントに限りましたが、今後子ども達にも使ってみた感想を聞いてみたいと思っています。

モニタリングに参加してくださっている皆さん、出来るだけ対話の時間も設けて活用してくれているのでありがたい限りです。引き続きよろしくお願いします！



日本イエナプラン専門教員資格認定研修 中間報告

2021年4月より行なっている研修も折り返し地点に差し掛かりました。新型コロナウイルス感染症の動向を見ながらの開催のためオンライン開催が多くなっていますが、毎月1度週末の2日間を使って話し合いながら学びを深めています。画面越しにも、徐々に受講生それぞれのユニークな面が発揮されるようになり、またブレイクアウトルームでの少人数での対話の繰り返しによって、個々のつながりも生まれてきていることを感じます。主催側が色々説明しても面白くないので、今回はお二人の方から研修を受講して現時点でのコメントをもらいました。

「研修は、アドベンチャーそのものだ！」

岩本歩

私にとって、この研修は「アドベンチャー」だ。

研修で印象に残っているのは、ワールドオリエンテーション体験だ。「お金」がテーマだった。私の班は、「お金とは何か？お金の歴史とは？」の対話をライブで発表することに決まった。対話を発表することは、私がしっかり理解し、自分の言葉で話すことができないと行えない。私は貨幣史博物館の資料など、夜を徹して学んだ。素直に学ぶのが楽しくて仕方なかった。

この経験を生かして、私が担当する学級ではワールドオリエンテーションを実践した。「きれいな水にするには」という問いをもった子どもは、ろ過装置を開発した。「そもそもごみとは何か。」という問いをもった子どもは、ごみの定義を語り合っていた。

私自身が学ぶ楽しさを本研修で体験できたことで、子どもの問いを以前より楽しめるようになった。私は右の写真の道路標識が大好きだ。

私のイエナプラン教育研修という「アドベンチャー」は、まだまだ続いている。研修、充実してます！



「ともに生きる世界を生み出すためのワールドオリエンテーション」

新堀貴子

研修を振り返り、特に印象的だったのはワールドオリエンテーション（以下WO）の体験だ。教師としてWOを受け持つ前に、自分が子どものつもりで取り組む経験は大変貴重であった。これは全国の先生方にも体験してほしいと思った。なぜなら、自立と幸福を生み出すWOに必要なものは何なのか、体感覚で学べるからだ。私は2人の仲間と「お金が汚いのは本当か」というテーマで探究し、実験を行った。この時、仲間のマルチプルインテリジェンス（以下MI）を把握した上で行った。すると、いつの間にかそれぞれがそれぞれのMIを大いに発揮しており、学びが加速、深化していく手応えを感じた。手を動かしながら考える実験は私の運動MIの発揮、実験結果をまとめてくれたのは言語と論理をMIにもつ仲間。仲間の存在の大きさと、人には得意とする貢献のカタチがあることが分かった。これが自立と幸福、「ともに生きる世界」を生み出す鍵となると思った。WOがイエナのハートである意味がよく理解できた研修であった。

今後とも研修を通してさらに学び合うことで個人としてもグループとしても成長できる場にしていきたいと思っています。以上、中間報告でした。

言語教育のプロジェクトが始まりました！

オランダのイエナプラン研修所JAS(Jenaplan advice&schooling)の方々とフレネ教育関係者が共同執筆された『DAT Plus』をリヒテルズ直子さんが全文日本語に訳してくださる！それを元に日本で実践してみても日本版の『DAT Plus』を作ろうというプロジェクトが始まりました。

このプロジェクトは、研究、実践、ゴールブックの3つのチームに分かれています。研究チームは、教職大学院の国語・英語の研究者の方々を中心に、日本の学習指導要領との照らし合わせ等を行なっていく予定です。実践チームは、小学校の全科、英語の先生と中学校の英語の先生、そして幼保こども園で言語教育に携わっている方々を募集し、27名のチームが結成されました。ゴールブックチームは、第2回日蘭アカデミー（2019年にオランダで開催されたイエナプラン専門研修）のメンバーでイエナプランのゴールブック（子どもたちが学んだこと、まだ分からないことなど学びの立ち位置を自身で確認するためのもの）の日本版を作ろうとしている方々のチームです。

プロジェクトの始動を記念して、6月にはJASのヒュバート・ウィンタース氏にワークショップをしていただきました。そもそも、「学ぶ」とは何か、「教える」とは何か、ということから始まり、自由作文（元々はフレネが始めた、形式や内容が「自由」な作文）を書いてみたり、生きた言語教育とは何かを考えたり、とても充実した時間でした。やはり、一つ一つの教材や授業を分断して考えるのではなく、大きな視野で「言語教育」を考えなくては行けないと改めて実感しました。

『DAT Plus』では、言語の能力を、話す・聞く・書く・読む・文法という4つの領域に分け、それぞれ数個ずつの学習ライン（最終目標とそこに至るまでの通過点にあたる能力を示したもの）を設定し、合計23の学習ラインを明示し、子どもたちそれぞれの発達段階に合わせた（個別最適化に基づく）指導をするための枠組みを示しています。7月からは、23の学習ラインを毎回3ラインずつ、リヒテルズ直子さんに解説していただくワークショップが始まっています。実践チームのメンバーは、ワークショップを受けて、それぞれの現場で学習ラインに取り組み、うまくいった点やいかなかった点をふり返っていきます。果たして、3月までに、 23×27 人分＝621通りの実践が集まるのでしょうか？！プレッシャーを感じながらも、今までにはない視点で、新しい活動を考えることができそうで、わくわくしています。続報をどうぞ、楽しみに！



今後のニュースレターについて

ニュースレターは今号で区切りの40号を迎えました。第1号は2010年に発行。以来、特別顧問（設立時代表）のリヒテルズ直子からの寄稿文を中心に、多くの人の力によってここまで続けてきたことに改めて感謝致します。

近年、日本のイエナプラン教育に多くの注目が集まっていることを感じます。これは大変喜ばしいことですが、同時に、今まで以上に私たちがイエナプランのハートを持って協働し、自分たち自身を変化・成長させていくことが求められているとも捉えています。そこで協会では、ニュースレターをこれを支えるメディアとして発展させるべく、鋭意検討中です。

- より多くの会員の方が繋がり合うことのできるキッカケ・情報を提供する
- 協会員の実践や研究を記録し、共有できるプラットフォームとする
- 他の隣接領域の専門家を含めたさまざまな立場の方に執筆していただき、
私たちの視野とイエナプラン教育のコンセプトをさらに広げる

どうぞ引き続きご愛読いただき、一緒に育てていってくださいましたら幸いです。
ご意見ご感想もお待ちしています！

info@japanjenaplan.org



支部報告（2021年3月～2021年9月）

【宮城支部】

「日本イエナプラン教育全国大会」に向けて、毎月1回の例会を重ねてきました。
 「どんな大会にしたいか、なるといいか？」をテーマに、集まった仲間と対話を繰り返すことが、私たちのイエナプラン観をより深めてくれたように感じます。
 イエナプランのコンセプトを大切にしながら、私たち自身が「対話」「遊び」「学習・仕事」「催し」をリズムカルに回していけるといいよね、と確かめ合いつつの活動です。

全国大会当日は、普段の例会の延長線の上にあるもの、というデザインで企画してきました。
 2年続けて全国大会の企画をさせていただけたことに感謝いたします。

- 今後の宮城支部の例会では、
- 次の目標をみんなで決める
 - 全国大会の分科会テーマの中から、毎回1つを選択して対話する。
 - 「イエナプラン実践ガイドブック」などのブックトーク
 - ミニミニ実践報告

などをぼんやり考えています。そこもメンバーと今後相談です。

（報告：本川良）

【東京（多摩）支部】

5月にオンラインで「イエナプラン実践ガイドブック読書会 part1 20の原則を読み解く」を行いました。
 人間、社会、学校の各グループに分かれて読みを深め、最後にシェアをしていきました。
 シェアでは、

- ・よく分からないと思ったときに、英語版の20の原則を読むと理解が進む！
- ・20の原則は心のよりどころ。いつでも立ち返って、振り返ることが大事

という気づきがありました。

今後は読書会part2のほか、他支部と共催でワールドオリエンテーション体験会を企画中です。
 机上の理論で終わらない支部にしたいと考えています。

（報告：新堀貴子）

【神奈川（湘南）支部】

今期は活動ができませんでした。9月以降の活動予定は以下の通りです。発行日前日ですが、紹介します。

イエナプラン勉強会

【日時】9月24日（金）10時30分から11時30分

【テーマ】 サークル対話を考える

【内容】 イエナプラン教育の中で行われる4つ基本活動のうちの一つの「サークル対話」。
日々子どもたちが日常的に繰り返す「対話」から育まれるものってなんだろう？
そんなことをみんなで考えてみたいと思います。

【開催場所】 zoom予定（状況によっては会場開催もできたらと思っています）

【参加費】 無料

（報告：菊地萌）

【長野（佐久穂）支部】

3月17日（水） 第7回 イエナカフェin佐久穂

「20の原則9、10を読む会」

出てくる言葉について話しながら深く考え、自然環境のこと、文化と自然とは？責任を持つとは？など
など話が広がっていきました。

4月25日（日） 第8回 イエナカフェin佐久穂

「20の原則11を読む会」

5月14日（金） イエナカフェ スピンオフ企画online

「イエナカフェ×哲学対話」

イエナプランに限らず、教育や子育て、社会で日頃もやもやすることを話しました。

5月20日（木） 第9回 イエナカフェin佐久穂

「DVD上映会」

6月26日（土） 第10回 イエナカフェin佐久穂

「20の原則12を読む会」

梅雨の晴れ間でとても気持ちのいい日でした。公園でシートをひいて語り合いました。子どもたちもの
びのびと遊んでいました。いい時間でした。

7月16日（金） 第11回 イエナカフェin佐久穂

「20の原則13を読む会」

DVDも見て、ワールドオリエンテーションについて話がはずみました。

8月29日（日） 第12回 イエナカフェin佐久穂online

「20の原則14を読む会」

原則だけでなく、解題の中の「倫理観」という言葉や、「教育的に考えられた道具や環境」などのキー
ワードについても話をして盛り上がりました。久しぶりのonline開催で、少し遠くから参加してくれたメ
ンバーもいました。

（報告：山ノ井芙美）

【愛知（名古屋）支部】

愛知（名古屋）支部では、『ゆるりとイエナ』をオンラインで2回開催することができました。

『ゆるりとイエナ』は、その名の通り、参加者がゆるりとした心持ちで参加できる気軽なイエナプラン教
育の学習会です。イベントでは、「イエナプラン実践ガイドブック」をベースにして読書会、対話、振り
返しなどを行っています。

活動日、内容の報告など：

・2021年4月10日（土）

第0回ゆるりとイエナ ～スタートアップ編～（オンライン）

・2021年5月15日（土）

第1回ゆるりとイエナ ～20の原則×サークル対話～（オンライン）

今後の予定など：

今後も、イエナプラン教育の学習会をオンラインを中心に開催していく予定です。

（報告：若杉逸平）

【愛知（豊田）支部】

*2021年3月～活動報告

Jenaplan Toyota Online Meeting 第一夜

3/21（日）19:00-21:00

Jenaplan Toyota Online Meeting 第二夜

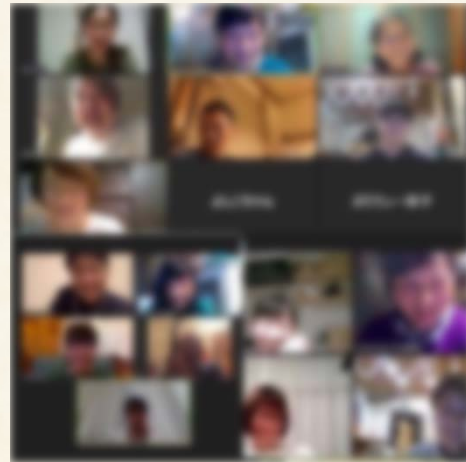
3/29（月）19:00-20:00

Jenaplan Toyota Online Meeting 第三夜

5/22（土）20:00-21:00

Jenaplan Toyota Online Meeting 第四夜

6/18（金）20:00-21:00



（内容は、20の原則に親しんだり、たわいもないおしゃべりをしたり、深い対話をしたり、いろいろです。）

*2021年9月～活動予定

2022年3月までの間に4回程度、引き続きオンラインミーティングを開催する予定です。

またコロナ禍の収束具合によりますが、リアルミーティングも久々に開催したいと考えています。

*運営スタイルについて

以前お話したのと変わらず、世話人制にて相談しながらやっています。

世話人は現在7人いますが、イエナプランに関する知識量はバラバラです。

しかし描くヴィジョンはほぼ一致していると思われ、イエナプラン的な在り方で支部を運営しようという雰囲気が自然とできています。

世話人としての仕事の内容や量も均一ではなく、そのときやれる人が、やりたいことをまずはやる（やりたいことがある人が、やれることをまずはやる？）感じです。リアルで集まれるようになるまでは、今しばらくその傾向は強めにならざるを得ないかな、と考えています。

（報告：安藤順）

【兵庫（神戸・明石）支部】

神戸明石支部では昨年様々な実践報告を聞き、今年はイエナプラン教育ってなんだろう？と立ち戻ってみんなで考えました。

今後は、「20の原則について語り合う会」や、「マルチプルインテリジェンスってなんだろう？」「みんなで哲学対話」などを予定しています。

《活動日、内容の報告など》

2021年3月6日（金）@zoom

『イエナプラン教育ってなんだろう』をテーマに、学校ってなんのためにあるの？教育って何だろう？と、みんなで意見を出し合いました。

《今後の予定》

2021年9月26日（日）@zoom

身近な出来事の中から、これは20の原則の〇にあたるんじゃ・・・などとみんなで話し合いながら、20の原則を読み深めていきたいと思います。

今回もzoom開催ですので、どなたでもお気軽にご参加ください！

（報告：末永静）

【広島支部】

イエナプランを手がかりに「広島の教育をもっと楽しいものにしたい」「もっと子どもたちがいきいきとしたものにしたい」「先生たちがもっとやりがいを実感できるようにしたい」という想いで広島支部は活動しています。現在、さまざまな実践を大切に学びを深めています。今後も、「まずはやってみよう！やってみなければ分からない」ということを大切にして活動していきます。よろしくお願いいたします。

《活動日》

2021年7月3日（土）第5回勉強会（オンライン）13:30～15:30 テーマ『自由と責任』

子ども主体の学び＝子ども任せの学び？子どもの自由にすると学習規律はどうなる？先生の役割は？子ども主体の学びは教えたらいけない？等々、教室の中で生まれる悶々とした問いについて参加者同士で対話を深めました。

先生たちが自由になれていない、もしかしたら先生たちも管理されているのが楽なのかもしれない。先生たちが答えを求めてしまっている。子どもにも、先生にも昔から染み付いた点数の価値観がある。学校としてのルールがなく「自由」だとしても、人間としてのルール、社会としてのルールがある！それがイエナプランの20の原則だ！などの話が出ました。

失敗がOKという価値観が大事だという話にもなりました。これからも「問い」を大切にして勉強会を続けていきます。

《今後の予定》

9月中 第6回勉強会（オンライン）企画中

10月中 第7回勉強会（福山市内会議室）企画中

（報告：野島崇志）

【福岡支部】

毎月第1土曜日（13：00～15：00）に、学習会を持っています。

2020年5月から行った『8つのミニマムを原典で読む』が1月で終了し、それがおもしろかったので、またみんなで何かを読もうということになり、今は『イエナプラン実践ガイドブック』を読み進めています。参加者は10人未満ですが、参加者の対話を中心に進めているため、毎回2ページほどしか進んでいません。最初は理念部分だから仕方ないのかもしれませんが、良い方法があればもう少しスピードアップしたい感じです。（この調子だと5年以上かかってしまう、笑。）

良かったのは、参加メンバーが当番制で毎回エナジャイザーと進行をしてくれていること。当番の回は、少し意識が高まるのは私だけではないかもです。

今後の活動予定は、引き続き第1土曜日に実践ガイドブックを読んでいます。

次回は10月2日13：00～です。

（報告：久保礼子）

【オランダ支部】

5ヶ月程ぶりに支部メンバーで勉強会を行いました。テーマはオランダの教員養成学校です。支部メンバーである私が現在、オランダの小学校向け教員養成学校に在籍していることもあり、そこでの経験を会の土台として話しました。私が在籍しているコースのカリキュラムがどのようなものなのかをメインに取り上げ、日本の教員養成との大まかな比較へと話は盛り上がっていきました。オランダ教員養成でのあらゆる経験がまだ言葉にしきれず、ひとまずのアウトプットの場とさせてもらいました。いつかより多くの人たちに、オランダのとある教員養成学校のことを伝えられる機会が設けられればと思っています。

次回の活動は未定です。支部メンバーの勉学の都合で会の活動頻度は低いですが、卒業するまでは細々とでも続けていきます。

（報告：山地芽衣）



各支部のご案内

・宮城支部	miyagi@japanjenaplan.org	本川良
・埼玉支部	saitama@japanjenaplan.org	田村悠子
・千葉（浦安）支部	chiba@japanjenaplan.org	山田順子
・東京（世田谷・中野）支部	setanaka@japanjenaplan.org	浅野聡子
・東京（多摩）支部	tama@japanjenaplan.org	新堀貴子
・神奈川（湘南）支部	syounan@japanjenaplan.org	菊池萌
・長野（中信）支部	matsumoto@japanjenaplan.org	瀧澤輝佳
・長野（佐久穂）支部	sakuho@japanjenaplan.org	山ノ井芙美
・長野（南信）支部	nanshin@japanjenaplan.org	手嶋美穂
・愛知（名古屋）支部	nagoya@japanjenaplan.org	若杉逸平
・愛知（豊田）支部	toyota@japanjenaplan.org	安藤順
・兵庫（神戸・明石）支部	koubeakashi@japanjenaplan.org	末永静
・広島支部	hiroshima@japanjenaplan.org	野島崇志
・福岡支部	fukuoka@japanjenaplan.org	久保礼子
・オランダ支部	oranda@japanjenaplan.org	山地芽依

